



ひと手間で！事故も熱中症も未然防止！

～本格的な暑さの前に、エアコンの使用環境の確認と試運転を～

近年、夏の猛暑は常態化しており、今年は気象庁が「酷暑日（最高気温が40℃以上の日）^{※1}」を定めるなど、命の危険を伴う気温の上昇が生じています。熱中症対策としてエアコンの重要性がますます高まる一方で、毎年エアコンに関する事故が通知されており、その多くは“製品に起因しない”事故でした。

独立行政法人製品評価技術基盤機構 [NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原] は、エアコンの使い始めに気をつけるポイントを紹介합니다。



外火によりエアコン室外機が燃える様子

NITE に通知があった製品事故情報^{※2}では、2021年度から2025年度までの5年間にエアコンに関する事故^{※3}が345件ありました。調査が完了した252件の事故のうち、約6割（152件）は外部からの延焼等「製品に起因しない」事故ですが、エアコン室外機の周辺環境や使用方法に注意することで防ぐことができた事例もあります。

また、本格的な暑さを迎える頃には点検・修理依頼が集中し、不具合が見つかってもすぐに対応できない場合があります。酷暑日が到来する前、6月中までに使用環境の確認と試運転を行い、安心して夏を迎える準備をしてください。

【エアコンの気をつけるポイント】

○室外機の上や前後など周辺に物を置いていないか。

☑水の入ったペットボトルを置いていないか

☑段ボール、新聞、雑誌、ごみなどを近くに置いていないか

☑灰皿置き場として使用していないか

○エアコンの取り付け・取り外し・修理といった工事や作業は、販売店やメーカーに相談し、**専門の知識や資格を有する業者に依頼する。**

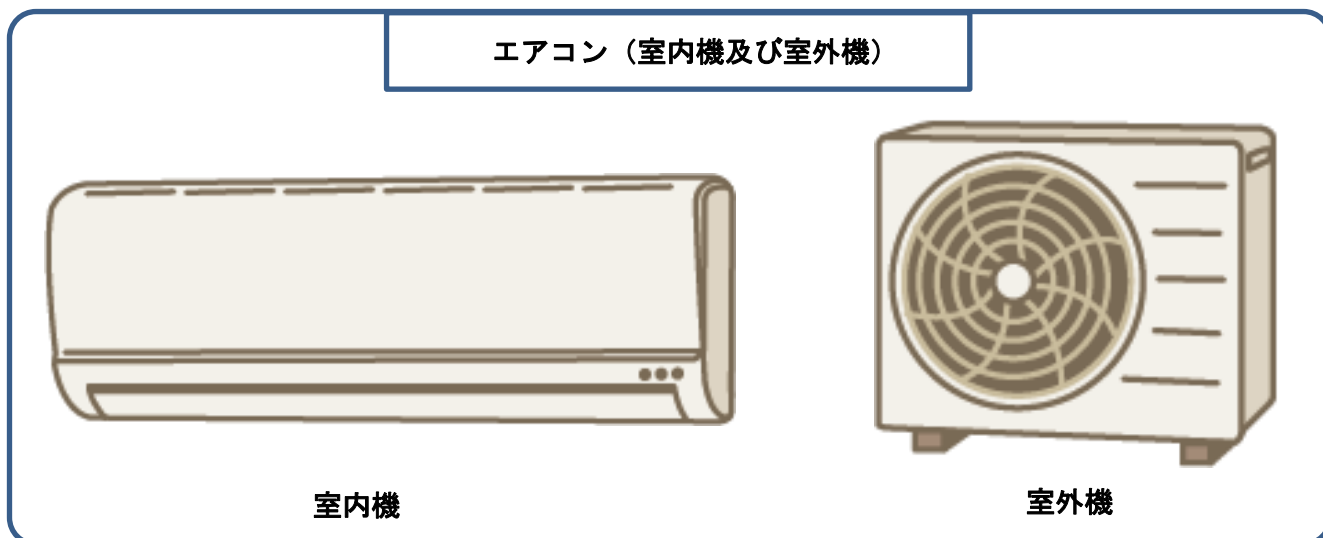
(※) 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

(※1) 気象庁発表 最高気温が40℃以上の日の名称を「酷暑日」に決定 [20260417_40degree_name.pdf](https://www.mhi.go.jp/20260417_40degree_name.pdf)

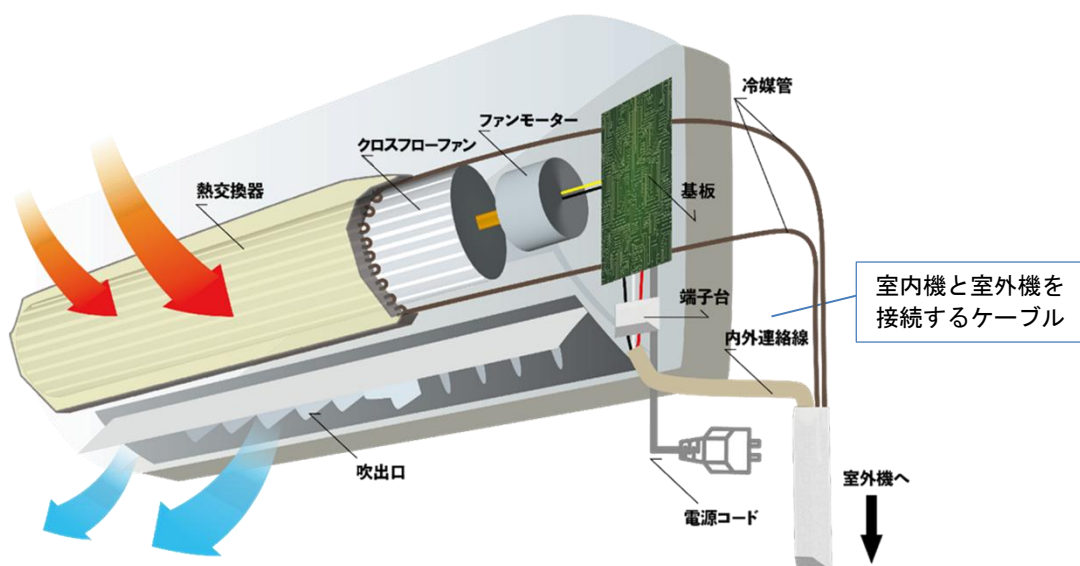
(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。また、本資料では、調査の結果、外部からの延焼が原因であり明らかに製品事故ではないと最終判断された情報も含みます。

(※3) ルームエアコン（室外機も含む）。ただし、本資料では窓用エアコンは除きます。

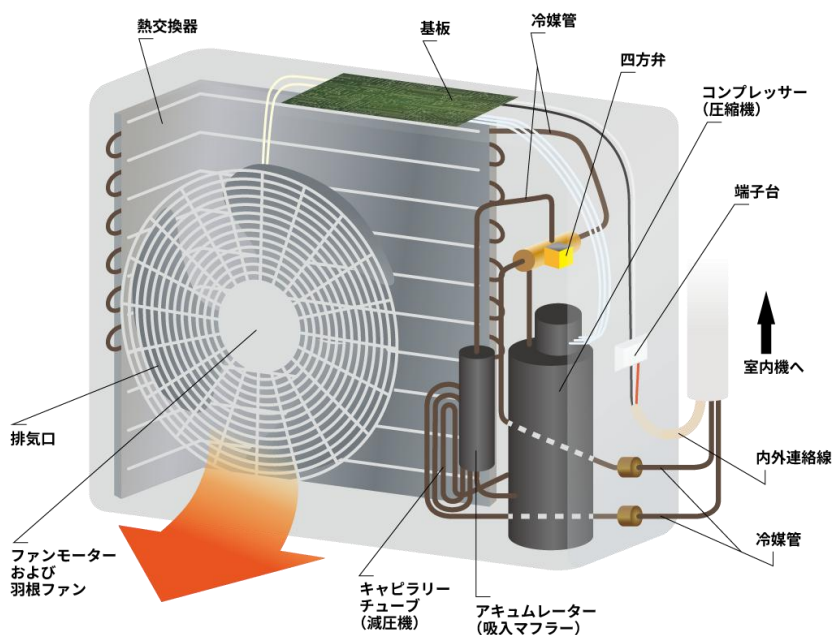
本資料で対象とする製品例



エアコン室内機の構造（概要図）



エアコン室外機の構造（概要図）



1. 事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2021 年度から 2025 年度までの 5 年間に発生したエアコンの事故 345 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年度別の事故発生件数

エアコンの事故 345 件について、年度別の事故発生件数を図 1 に示します。エアコン室外機の事故は 199 件、エアコン室内機の事故は 146 件発生しており、エアコンの事故としては、おおむね横ばいで推移しています。

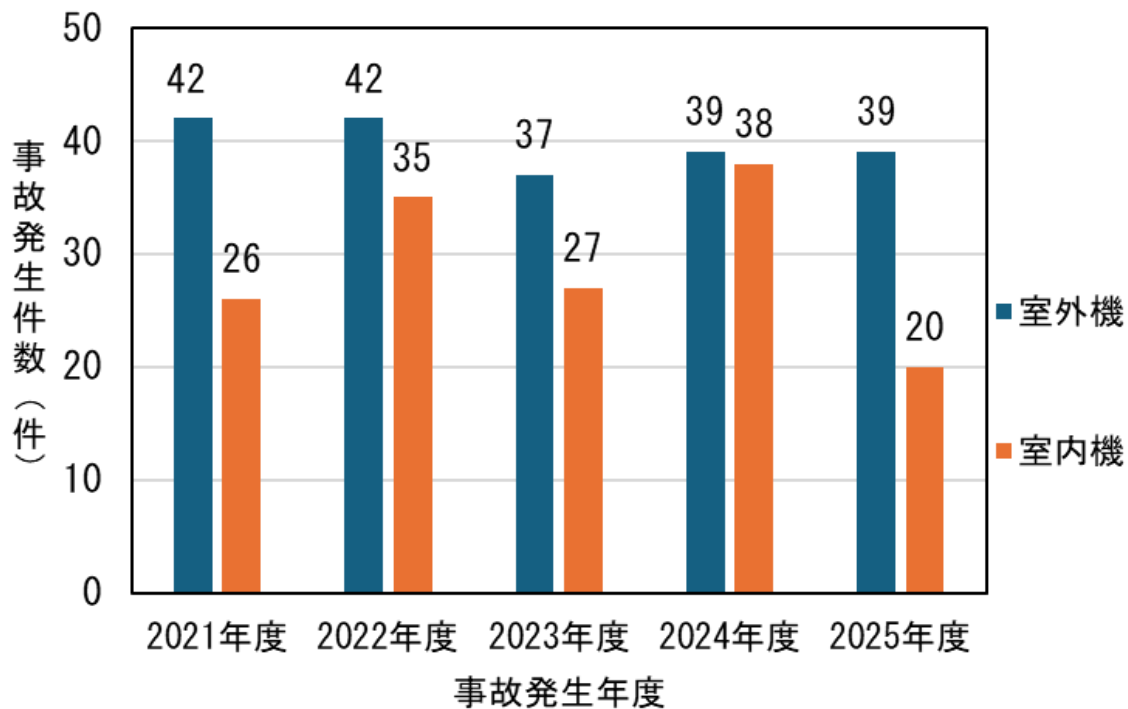


図 1 年度別の事故発生件数

1-2. 月別の事故発生件数

エアコンの事故 345 件について、月別の事故発生件数を図 2 に示します。夏季に事故が多く発生しています。これはエアコンの使用機会の増加に伴うものと考えられます。特に、7 月、8 月といった気温が高くなる時期での事故が目立っています。

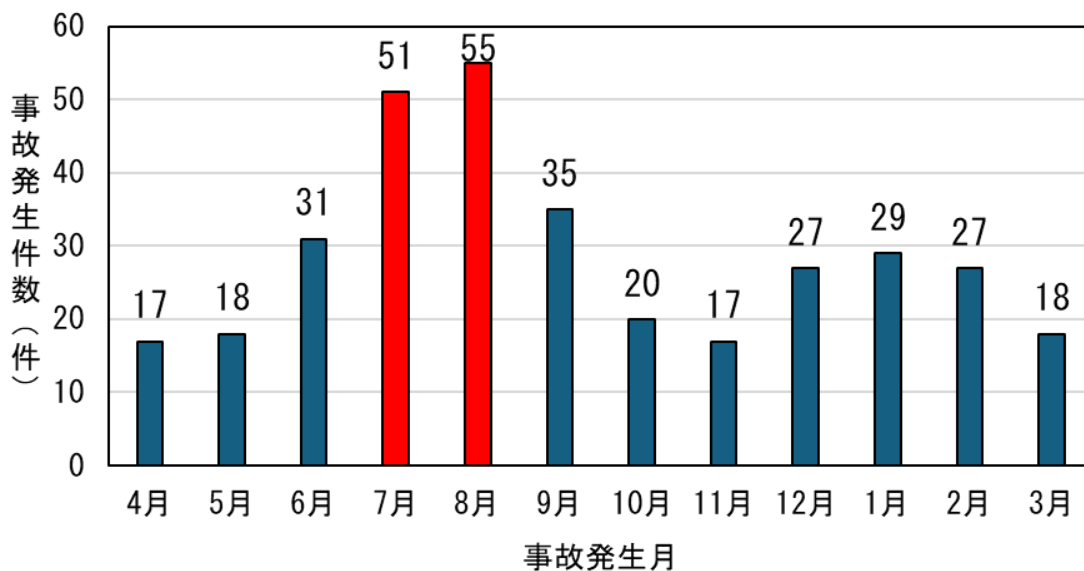


図 2 月別の事故発生件数

1-3. 事故の被害状況

エアコンの事故 345 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。製品が壊れるだけでなく、火災が発生したことによって死亡事故などの人的な被害も発生しています。また、火災事故は 345 件中 322 件で事故の 9 割以上を占めています。

表 1 被害状況別の事故件数^{※4}

被害状況		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	総計
人的被害	死亡		3 (3)		2 (4)		5 (7)
	重傷		1 (1)	1 (1)	1 (1)		3 (3)
	軽傷	2 (2)	2 (6)	7 (11)	6 (6)	5 (5)	22 (30)
物的被害	拡大被害 ^{※5}	53	59	47	45	42	246
	製品破損	13	12	9	15	12	61
被害なし・不明					8		8
総計		68 (2)	77 (10)	64 (12)	77 (11)	59 (5)	345 (40)
うち火災件数		64	72	59	71	56	322

(※4) ()は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

(※5) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

1-4. 原因別の事故発生件数

調査が完了した 252 件の事故について、原因別の事故発生件数を図 3 に示します。「製品に起因しない」事故が半数以上を占めています。特に、エアコン室外機の外部からの延焼又は延焼が疑われる（製品には発火痕跡がない）事故が、152 件中 96 件と多くなっています。その他、作業ミスによる室外機のコンプレッサーに空気が混入して破裂など製品の取扱説明書や据付説明書で禁止されている行為をしたことが原因として考えられる事故が発生しています。

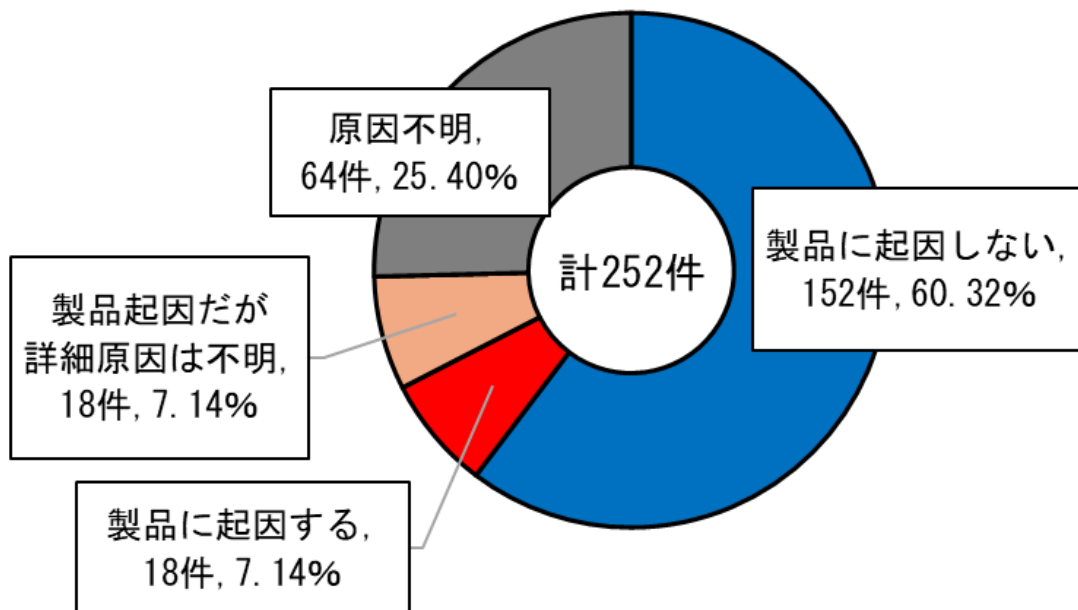


図 3 原因別の事故発生件数

1-5. 「製品に起因しない」事故の事象

NITEが受け付けた製品事故情報のうち、2021年度から2025年度までの5年間に発生したエアコンの事故345件について、「製品に起因しない」事故と判断された152件の事象別の内訳を表2に示します。エアコン室外機の事故が111件と約7割を占めています。そのうち外部からの延焼又は延焼が疑われるもの（製品からの発火痕跡がないもの）が約9割を占めています。

表2 「製品に起因しない事故」の事象別件数

事象	室内機	室外機	総計
外部からの延焼又は延焼が疑われるもの（製品からの発火痕跡がない）	21	96	117
作業ミスにより、室外機のコンプレッサーに空気が混入し破裂		9	9
室内機と室外機の連絡線（内外連絡線）を途中接続したことにより、接続部から発火	3	4	7
室内機の電源コードを継ぎ足し（ねじり）接続したことにより、接続部から発火	6		6
異物との接触等により、室内機の内部部品が一部破損して飛散	4		4
小動物などが室外機に入り込んだことにより、基板から発火		2	2
洗浄剤の付着により、室内機の電気部品から発火	1		1
その他	6		6
総計	41	111	152

2. 製品に起因しない事故の事例

■製品からの発火痕跡がなく、外部からの延焼が疑われる事故（収れん火災が疑われる事故）
事故発生年月 2022年12月（宮城県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

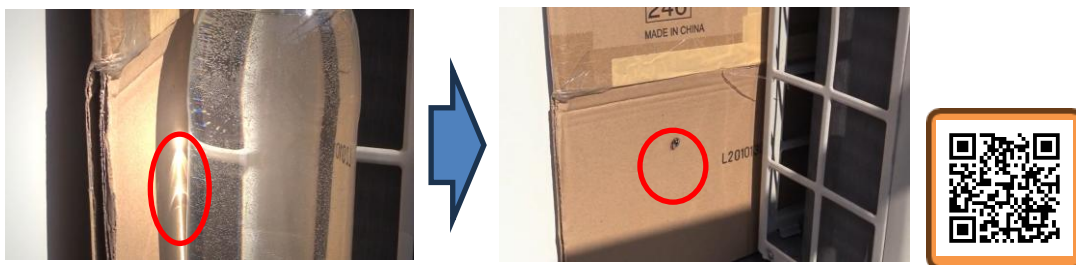
エアコン室外機及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

事故当日、エアコンを使用しておらず、ビニール製のシートを掛け、シートが飛ばないように室外機天面に水の入ったペットボトルを2本載せていた。なお、室外機は南東向きに設置されており、事故当日は快晴であった。詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、室外機に出火の痕跡は認められないことから、室外機に掛けられたビニール製シートがペットボトルの収れん現象により着火し、出火に至ったものと考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

エアコン ペットボトル



ペットボトルの収れん現象の様子（再現実験）

■電源コードを継ぎ足し接続（ねじり接続）したことが原因の事故

事故発生年月 2024年2月（東京都、年齢・性別不明、軽傷）

【事故の内容】

エアコン室内機を使用中、異音がしたため確認したところ、室内機及び周辺を焼損する火災が発生し2名が軽傷を負った。

【事故の原因】

電源コードを途中で切断し、継ぎ足した単線ケーブルとねじり接続されていたため、接続部で接触不良が生じて異常発熱し、出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と考えられる。

なお、取扱説明書及び据付説明書には、「火災の原因になるため、電源コードの加工や途中接続はしない。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

エアコン 途中接続

■作業ミスにより、室外機のコンプレッサーに空気が混入し破裂した事故

事故発生年月 2024年4月（大阪府、80歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

エアコン室外機の取り外し作業中、爆発を伴う火災が発生し、周辺が汚損した。

【事故の原因】

冷媒配管が外れたまま施工業者が冷媒回収作業を継続したため、圧縮機内に空気が入り込み、圧縮機内部が異常高温、高圧状態となり、破裂したものと考えられる。

なお、据付説明書には、「エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を混入させない。」「空気等が混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になる。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

エアコン 破裂 ポンプダウン



コンプレッサーに空気が混入して破裂した様子
（再現実験）



3. エアコンの気をつけるポイント

エアコンの気をつけるポイント

○室外機の上や前後など周辺に物を置いていないか。

エアコンの事故では、室外機の外部から延焼する事故が多く発生しています。以下のような状況になっていないか確認しましょう。

- ☑水の入ったペットボトルを置いていないか
- ☑段ボール、新聞、雑誌、ごみなどを近くに置いていないか
- ☑灰皿置き場として使用していないか

室外機の周囲に可燃物が置かれていると、可燃物が着火した際に室外機に燃え移り大きな火災に至るおそれがあります。他にも、段ボールやごみなどを置いておくと、小動物や虫などのすみかとなり、製品内部に入り込み配線をかじったり、電源基板に接触したりすることによって短絡して発火するおそれもあります。可燃物を置かないように注意してください。日頃から室外機周辺の片付け、清掃をするようにしましょう。



ペットボトルの取れん^{※6}



たばこの不始末



ごみの放置

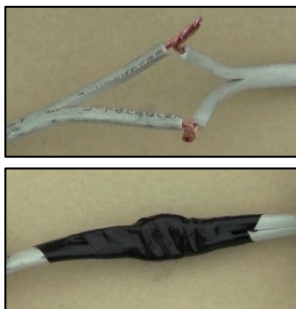
(※6) 水が入ったペットボトルが凸レンズ（虫眼鏡等）のように作用して、太陽光が一点に集まり、可燃物が発火すること。

○エアコンの取り付け・取り外し・修理といった工事や作業は、販売店やメーカーに相談し、専門の知識や資格を有する業者に依頼する。

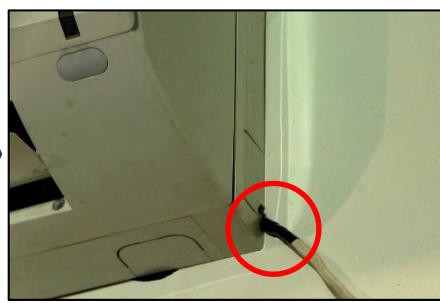
エアコンの取り付け・取り外し・修理といった工事・作業には、専門の知識が必要であり、中には電気工事士等の資格が必要なものもあります。また、取扱説明書や据付説明書で禁止されている行為があり、特に以下の行為は重大な事故に至るリスクがありますので注意してください。

⚠電源コードの継ぎ足し接続（ねじり接続）

コンセントの形が合わない、長さが足りないなどの理由で安易に加工や修理をしてしまうと接続部で接触不良が生じて異常発熱し発火するおそれがあります。



電源コードの継ぎ足し接続



継ぎ足し接続部が発火



⚠️ 冷媒を集める作業（ポンプダウン）で室外機が破裂するおそれ

エアコンの設置、整備、移設、撤去の工事には、専門の知識や資格が必要な場合もあります。エアコンの移設などの工事の際は、配管や室内機内に残留している冷媒ガスを全て室外機に集めて一時的に保管する作業（ポンプダウン）を行います。十分な知識を持たずにポンプダウン作業を行うと、本来は入らないはずの空気が室外機内のコンプレッサーに大量に混入して異常な高温高圧となり、室外機が破裂するおそれがあります。さらに空気（酸素）が混ざったコンプレッサー内の潤滑油が発火（爆発）するおそれもあります。

家庭用エアコンの冷媒ガスに使用されているフロン類は、オゾン層破壊や地球温暖化に悪影響を与えるため、家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）において、回収が義務づけられています。そのため、エアコンを移設するにはポンプダウン作業を行い、冷媒ガスを室外機に閉じ込める作業が必要です。確実な回収の観点からも、購入先の販売店、メーカーのサービス窓口などに相談し、作業が専門の業者によって行われるように依頼してください。

事故事例・リコール情報を確認

○過去に発生した事故情報、リコール情報を確認する。

エアコンの事故の中には、リコールが開始された後に発生したものもあります。お持ちの製品がリコール対象になっていないか今一度ご確認ください。

もしリコールの対象となっている製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者を確認や相談をしてください。そのまま使い続けないようにしてください。

【NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト) のご紹介】

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



※製品事故情報を収集し、公開して広く社会で共有して、事故原因の分析・評価や再発防止に活用していくことは重要です。そうした事故情報が活用されて、従来の基準が見直され、安全性の向上した新基準での製品が生まれ、流通・販売されることで、関連事故の減少につながります。

もし製品事故に遭われた場合には、消費者の皆さんは購入先（販売事業者）やメーカー（海外製品であれば輸入事業者等）または消費者ホットライン「188」（最寄りの消費生活センターや消費生活相談窓口）に、また、流通・販売事業者におかれてはそうした製品事故情報を知った場合には当該製品のメーカー等に、それぞれ報告いただくようご協力をお願いします。

【消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介】

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

試運転時の確認ポイント

○冷房運転をして冷風が出るか、異常が生じないか。

設定可能な最低温度に設定し、冷房運転で冷風が出るかどうかを10分間試運転して確認してください。

さらに30分ほど運転して、以下のような異常がないか確認しましょう。

☑室内機から水漏れがないか。

☑室内機や室外機から異音・異臭（焦げ臭いにおい）がないか。

☑エラー表示がないか、意図せず電源が落ちないか。

試運転に関するアンケートによると、試運転を知らない人も少なくなく、試運転を知っている人でもしたつもりになっている可能性があるとの結果が出ています（別紙3を参照）。

もし異常が確認された場合には、販売店やメーカーに相談し、必要に応じて点検を受けてください。



異常があったら販売店やメーカーに相談を

（参考）一般社団法人日本冷凍空調工業会及び一般財団法人家電製品協会
「エアコンシーズン前点検パンフレット」

https://www.jraia.or.jp/file/A_air_conditioner_maintenance_nospace.pdf

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 川崎 裕之

担当者 製品安全広報課 山副 敦司、藤原 翔吾

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

熱中症警戒アラートの発表回数

2021年から2025年までの5年間に発表された熱中症警戒アラート^{※1}の「月別の発表回数」を図に示します。また、表に「2025年の地域別の熱中症警戒アラート発表回数」を示します。

4月から10月までの間に、2021年は613回、2022年は889回、2023年は1232回、2024年は1722回、2025年は1749回アラートが発表されており、猛暑の影響で5年連続増加しています。

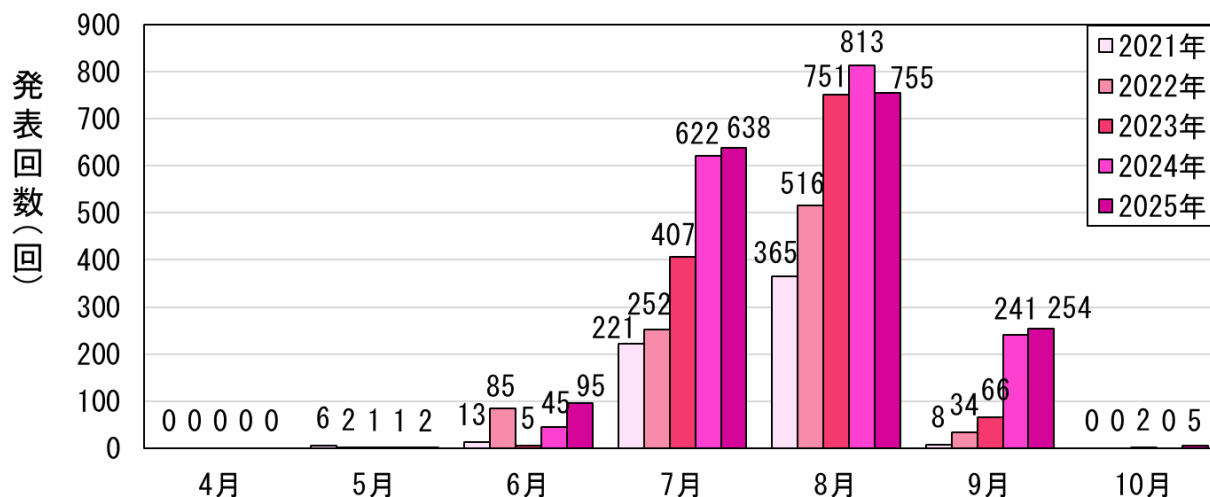


図 月別の熱中症警戒アラート発表回数

(※1) 2021年4月下旬から、環境省と気象庁が全国を対象に運用を開始。熱中症の危険性が極めて高くなると予測された際に、危険な暑さへの注意を呼びかけ、熱中症予防行動を促すための情報です。

表 2025年の地域別^{※2}の熱中症警戒アラート発表回数

地域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
北海道地方				15				15
東北地方				22	23	4		49
関東甲信越地方			4	118	157	38		317
東海地方			3	53	77	32		165
北陸地方				43	40	6		89
近畿地方			7	75	106	27		215
中国地方			8	88	98	16		210
四国地方			8	65	80	40		193
九州・沖縄地方		2	65	159	174	91	5	496
総計	0	2	95	638	755	254	5	1749

(※2) 本資料における各地域の都道府県は下記のとおりです。

地域	都道府県
北海道地方	北海道
東北地方	青森県・秋田県・岩手県・宮城県・山形県・福島県
関東甲信越地方	茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県・長野県・山梨県・新潟県
東海地方	静岡県・愛知県・岐阜県・三重県
北陸地方	富山県・石川県・福井県
近畿地方	滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
中国地方	岡山県・広島県・島根県・鳥取県・山口県
四国地方	徳島県・香川県・愛媛県・高知県
九州・沖縄地方	福岡県・大分県・長崎県・佐賀県・熊本県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

(図及び表：環境省 HP「熱中症予防情報サイト 熱中症警戒アラートの発表履歴」より NITE が作成)

https://www.wbgt.env.go.jp/alert_record.php

熱中症による救急搬送人数

2021 年から 2025 年までの 5 年間に熱中症により救急搬送された人数について、図 1 に「年別の救急搬送人数」、図 2 に「年代別の割合」、図 3 に「発生場所の割合」を示します。

ここ数年、猛暑の影響で救急搬送人数が増加傾向にあり、2025 年は 2021 年の 2 倍以上に増加しています。また、熱中症警戒アラートの傾向と同様、7 月、8 月に救急搬送人数が多くなっています。さらに、救急搬送人数は 5 年連続して増加しています。

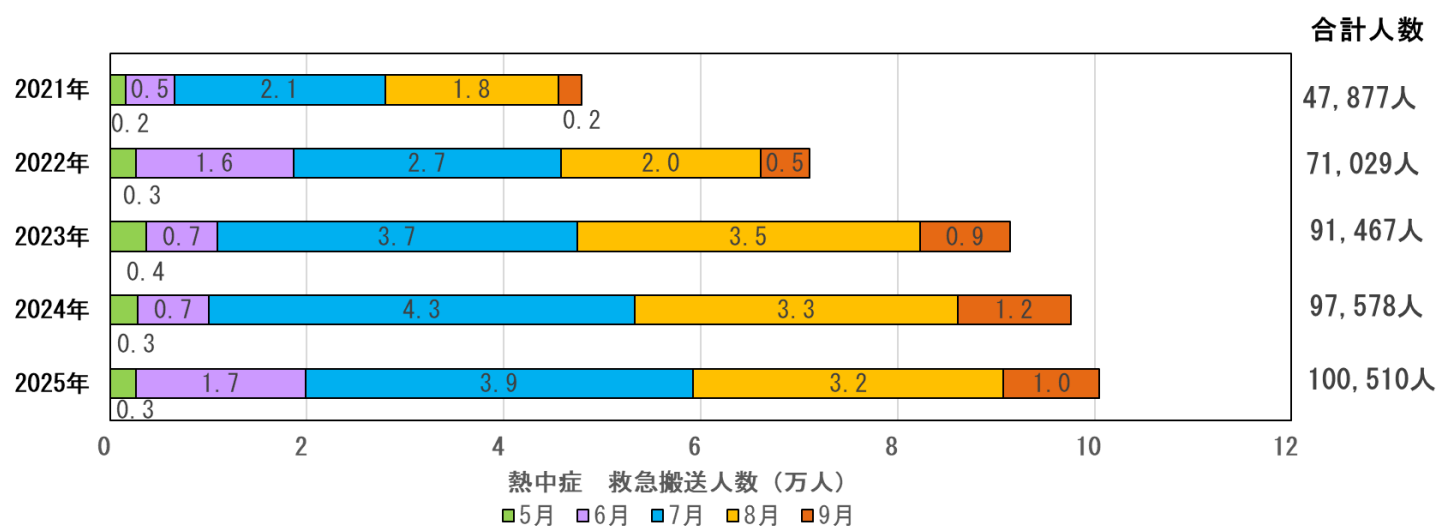


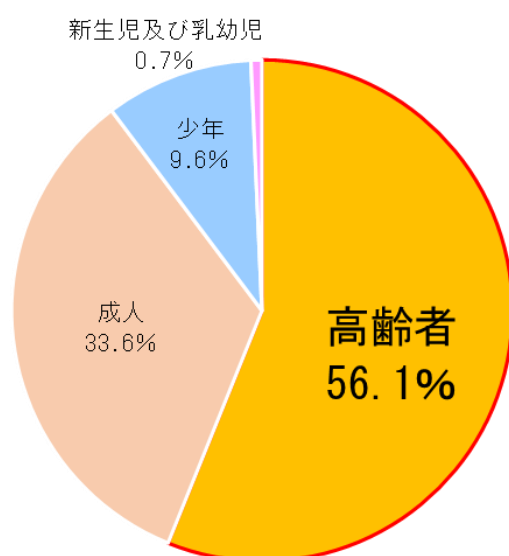
図 1 年別の熱中症による救急搬送人数

また、2021 年から 2025 年までの 5 年間に熱中症により救急搬送された「年代別の割合」を図 2 に、「発生場所の割合」を図 3 に示します。

熱中症で救急搬送されるのは高齢者が多く、また、熱中症の発生場所は約 4 割が住居となっています。高齢者の方は加齢により、暑さに対する感覚機能や体の調節機能が低下してしまうため特に熱中症に注意が必要です^{※3}。熱中症警戒アラートなどを参考に、できるだけ外出を控えるとともに、部屋の温度が高くないようエアコンを上手に活用しましょう。こまめな水分補給も心がけるようにしてください。周りの家族がエアコンの使用を促してあげるなど積極的な声かけをすることも重要です。

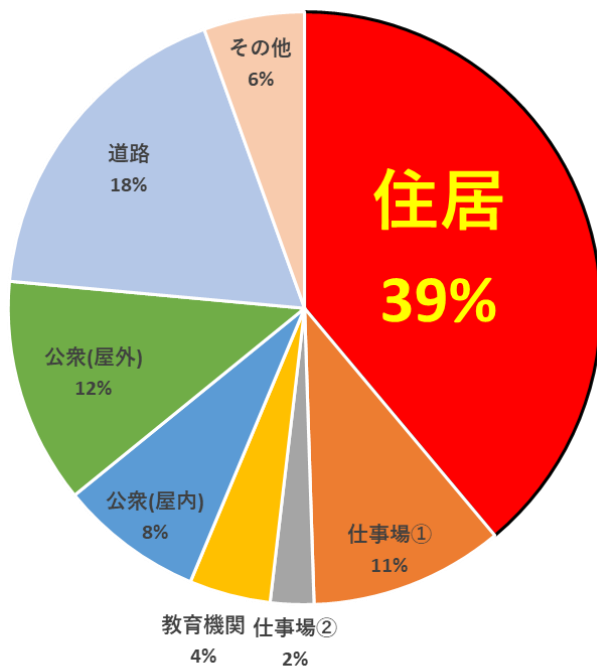
(※3) 環境省 熱中症予防情報サイト「高齢者のための熱中症対策」

https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/pr/20230530_leaflet_for_elderly.pdf



年齢区分	
新生児	生後 28 日未満
乳幼児	生後 28 日以上満 7 歳未満
少年	満 7 歳以上満 18 歳未満
成人	満 18 歳以上満 65 歳未満
高齢者	満 65 歳以上

図 2 年代別の熱中症 救急搬送人数割合



発生場所の詳細	
住居	敷地内全ての場所を含む
仕事場①	道路工事現場、工場、作業所等
仕事場②	田畑、森林、海、川等（農・畜・水産作業を行っている場合のみ）
教育機関	幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等
公衆(屋内)	不特定者が出入りする場所の屋内部分（劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等）
公衆(屋外)	不特定者が出入りする場所の屋外部分（競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等）
道路	一般道路、歩道、有料道路、高速道路等
その他	上記に該当しない項目

図3 熱中症の発生場所割合

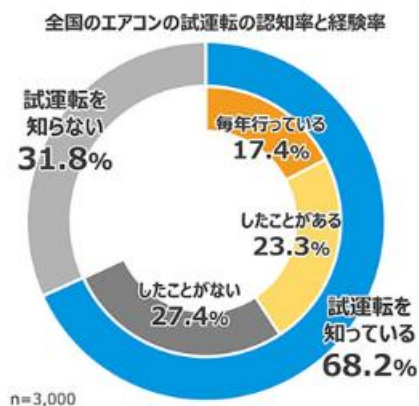
(図1、図2、図3：総務省消防庁HP「熱中症情報」よりNITEが作成)

<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post4.html>

【参考】エアコン試運転に関するアンケート調査（※ダイキン工業株式会社調べ）

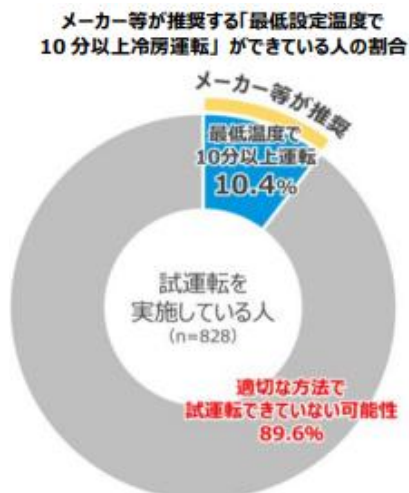
以下に、ダイキン工業株式会社が全国 3,000 人の男女を対象に実施した「試運転に関するアンケート調査」の結果の一部をご紹介します。

エアコン試運転認知者は約 7 割も、試運転経験者は約 4 割 毎年の実施は 2 割未満と習慣化には至らず



試運転の認知を調査したところ、「知っている」が 68.2%という結果になりました。「知っている」と回答した人のうち、**試運転経験者は 40.7%**と低い水準に留まっています。その内訳は、「毎年行っている」が 17.4%、「したことがある」が 23.3%で、試運転経験者の中でも習慣となっている人は少ない状況です。また、試運転を「知っている」のに、「したことがない」という人は 27.4%でした。

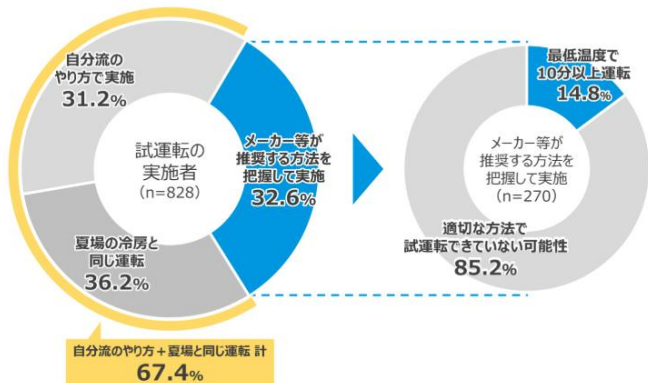
試運転経験者の約 9 割は「したつもり試運転」の可能性 不具合に気づかないまま使用時期を迎えている場合も



試運転を実施している 828 人に対し、試運転方法を聞いたところ、メーカー等が推奨している方法である「最低設定温度」で「10 分以上の冷房運転」を実施している人はわずか 10.4%で 89.6%の人が「したつもり試運転」の可能性があることが明らかになりました。

実施者の約 7 割が「自分流」、「夏場の冷房と同じ運転」と回答 “できている感覚”と実態に差、約 9 割が推奨どおりに実施できていない

エアコン試運転経験者の試運転方法



試運転を実施している 828 人に対し、試運転方法を聞いたところ、「自分流」が 31.2%、「夏場の冷房と同じ運転」が 36.2%となり、メーカー等が推奨する方法とは異なる試運転を行っていると回答した人が 67.4%を占めることがわかりました。また、「メーカー推奨の方法を把握して実施した」と回答した人においても、推奨される「最低設定温度で 10 分以上の運転」で実施した人は 14.8%にとどまり、約 85.2%が十分に実施できていない可能性がある結果となりました。

(出典・引用：ダイキン工業株式会社 エアコン試運転経験者の約 9 割が「したつもり試運転」の可能性)